

市民クラブ 米永 あつ子 議員

1 有機農業の推進と学校給食への導入について

- (1) 鹿屋市産の農産物を強力にブランド化するためには、有機農業の推進が不可欠である。国の「みどり戦略」を最大限に活用し、先進事例を参考にしながら、「有機米・有機野菜の学校給食への導入」を早期に実現すべきではないか。行政が給食という安定した「出口」を確保することで、生産・流通体制を確立し、生産者の経営安定と市民への安定供給を同時に図るべきと考えるが、市の認識を伺いたい。
- (2) 「オーガニックビレッジ宣言」と市長の決意について、「第2次かのや農業・農村戦略ビジョン」を具体化するに当たり、本市も早急に「オーガニックビレッジ宣言」を行い、オーガニック給食の本格実施に向けて舵を切る考えはないか。先進自治体に比肩するスピード感を持って取り組む決意があるか、市長に直接伺いたい。

2 子どもの権利保障と子どもの居場所支援の強化について

- (1) 夜間保育の認可について、令和2年6月議会、また令和7年3月議会でも質問したが、これまでどのような検討を行ってきたのか示されたい。夜間保育への支援策を示されたい。
- (2) 民間の子どもの居場所（フリースクール・子ども食堂）への財政支援について
 - ① 学校以外の「居場所」が子どもの生活を守る砦となっている現状がある。フリースクール等への支援においては、市民が私費を投じて運営しているフリースクールに対し、運営費の補助や利用料の助成を行い、保護者の経済的負担を軽減する考えはないか。
 - ② 子ども食堂の継続性を確保するために、民間任せの現状を改め、子ども食堂が「相談業務」や「見守り」の役割を果たせるよう、拠点の維持に対する直接的な財政支援の拡充を行う考えはないか。

(3) 不登校児童生徒への教育・福祉サービスの平等な提供について

- ① 不登校は「どの子どもにも起こりうるもの」と国も示しているが、本市の対応には格差があるのではないか。例えば、タブレット端末の配布状況については、登校していないことを理由にICT端末が貸与されていないケースはないか。家庭学習の保障や学校との接点維持のため、速やかに全対象者へ届けるべきではないか。
- ② 健康診断の保障について、学校での健診を受けられない子どもに対し、後日の個別受診や保健センターでの代替実施など、健康管理の機会を市として保障する体制を整えられないか。
- ③ 多様化学校についての見解を示されたい。

3 市政運営について

本市は、令和6年度決算で財政力指数 0.47、経常収支比率 91.7%である。これらの数値は本市が厳しい財政状況にあることを示しているが、今後、3割自治体の脱却に向けた構造改革が不可欠だと考える。

- (1) 本市の経常収支比率は、令和6年度決算で91.7%と極めて硬直化した財政状況である。市長が掲げる福祉・所得向上策の財源確保に向け、どの事務事業を聖域なく見直す考えなのか。
- (2) 今後4年間のふるさと納税の数値目標を示されたい。
- (3) 今後4年間の企業誘致の考え方について示されたい。
- (4) 激戦となった市長選挙の結果を受け、支持層以外も含めた市民全体に対し、財政の厳しさと将来負担の現実をどのように共有していくのか。

4 市営公衆浴場について

(1) 市営公衆浴場3施設のパスポート共通化について

現在、鹿屋市には3つの市営公衆浴場があり、それぞれ半年及び年間パスポートを発行している。これらは同じ「市営」の入浴施設であることから、施設ごとの枠組みを取り払い、全施設で共通利用できるようにすべきではないか。

パスポートを共通化（共有化）することで、市民の利便性が高まるだけでなく、施設間の交流促進や市内の回遊性向上が期待できると考えるが、当局の見解を伺う。

(2) 湯遊ランドあいらについて

① 設置された太陽光及び太陽熱利用システムは、当初の計画どおりに稼働しているのか。現状の課題を示されたい。

② 当施設では混雑時に給水・給湯が制限され、利用者に不便を強いている。当局の見解を示されたい。